

NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会報告（鹿野町）

鳥取西地域振興会議ブロック会議

平成29年7月26日午後1時30分

1. はじめに

平成28年度は経営改善を行い、地域に必要とされる事業、団体を目指して取り組みました。課題であった「ゆめ本陣」の売り上げは低い状態で推移し大きなマイナスは解消できませんでした。全体の収支はマイナスであり目標には達しませんでした。前年度からの改善が見られ減価償却費以内となりました。収支プラス化に向けて今後更なる努力が求められます。

鳥取市からの「空き家バンク」委託は4年目、農水省の支援による「鹿野町河内果樹の里山事業」は2年目、「週末だけのまちのみせ」は5回目を開催しています。また「いんしゅう鹿野盆踊り」「節分」等のイベント、タイムズ発刊、まちづくり合宿も継続されるとともに、新たに「鹿野芸術祭00」「てぶら革命」も開催されるとともに大阪国際大学との協定を結ぶなど賑やかな一年であったと感じます。

2. 各種イベントの開催・協力、地域連携

地域のイベントとして8月13日「いんしゅう鹿野盆踊り」、12月18日「クリスマスイベント」、2月4日「節分」、「ベセト演劇祭」に連携して「週末だけのまちのみせ」は5回目を9月の2週末に開催。11月の2週末には「鳥の演劇祭9」に連携して「鹿野芸術祭00」を行い、3月にはドイツ・ライプツィヒとの交流から生まれた「てぶら革命」も開催しました。また地域で開催された「蓮ウォーク」「鳥の演劇祭9」など、地域の団体等によるイベントにも参加協力しました。事業を通して子どもや若い世代が集まる機会と場所を作ったと感じます。

3. ゆめ本陣・夢こみち

ゆめ本陣は時短やカフェの開始、レイアウトの見直し等、新たな取り組みも行いましたが、売り上げは低い状態で推移し大きなマイナスは解消できませんでした。今後営業日の変更等、抜本的な改善が必要と考えます。

夢こみちの売り上げは減少しましたが、堅実に事業を継続しております。しかし人員の新たな確保も検討が必要と考えられます。

4. 移住定住促進・空き家活用・とっとりカフェ

本年度は「鳥取市移住定住空き家運営業務」を受託して4年目でした。空き家の新たな借用契約2件、空き家の片付け2件と確保が難しい状況でした。地域の人々の協力も得られ空き家所有者へのコンタクトも少しずつ進んでおり、継続して空き家確保に努力する必要があります。

お試し定住施設「しかの宿」の運営業務も行いましたが、建物環境が悪くなったこともあり残念ですがH29年3月で閉鎖することとなりました。

移住希望者は鳥取市からの紹介が少なくなっているなかで、直接の相談者は継続的にあり、空き家の紹介・移住相談は22件、支援による移住の決定は8家族12人となりました。

とっとりカフェ大阪を10月15日、大阪国際大学と協力して大阪国際大学校内にて移住相談会、鹿野の紹介を行いました。カフェへの立ち寄りには100名を超え、トークイベントにも50名程度参加頂きました。またとっとりカフェ東京は12月3日に東京谷根千地域にて開催し、カフェへの立ち寄りには150名以上であり、トークイベントに約50人参加頂きました。鹿野の紹介とI・Uターンに繋がるきっかけになったと感じます。

鹿野がきっかけとなり鳥取市他地域の空き家バンク委託が始まり、市内6エリアが活動することとなりました。また東部エリアで空き家活用、移住支援に取り組む民間団体とも情報交換、連携が出来ればと「いなば移住支援ミーティング」を一緒に立ち上げました。シェアハウス・ゲストハウスの勉強会や、鳥取県の移住フェアのセミナーを企画するなど鳥取の移住支援に広域で取り組む動きが生まれています。

5. 輝く中山間事業

鳥取市の支援を受け「鹿野魅力創出【食・工芸・発信】プロジェクト」が3年目でした。鹿野町内にある資源を活用し、地域のお店・グループと協力して商品化を目指す事業です。これまで鹿野町産のトマトで作るピューレ、ケチャップの商品化、生産販売。「夢こみち」のお弁当・ケータリング。ゆめ本陣のパンフレット、ショップカード制作。「かりん坊」のパッケージ見直し。榎石見銀山生活文化研究所への「すげの縄」提供などに取り組むとともに、大阪、東京で開催したとっとりカフェでも販売を行いました。

6. 鹿野町河内果樹の里山事業

鹿野町河内地区の耕作放棄地等農地の新たな活用を目指した、【鹿野町河内果樹の里山事業】は2年目となりました。中心は河内の方々ですが、鹿野町総合支所、鳥取大学、大阪国際大学の協力も得て行っており、今年度は約350本の果樹の苗を植え、2年間で約600本となりました。雑草処理、肥料散布、いのしし柵設置など一年を通して取り組みました。またイチジクジャムの試作や鳥取大学生によるやたら漬の試作も行い、試食会も催しまし

た。視察は兵庫県、京都府の果樹園等を訪問し観光農園を学ぶとともに、兵庫県宍粟市に商品開発や販売のあり方を学ぶ機会としました。

また鳥取県「鳥取スタートラボ」事業において鹿野プロジェクトとして取り組んでいた「耕作放棄地再生プロジェクト」を提案頂きました。

7. 登録有形文化財

昨年から鹿野の資源である江戸・明治期建築の古民家を国の登録有形文化財に申請する動きを進めています。本年度は山根町・熊谷家住宅、同時に下町・原田家住宅も登録となり、11月には授与式、見学会を行いました。また来年度の認定に向けて鍛冶町・田中家住宅の申請も行いました。今後も年に1,2件の認定に向けて進めて参りたいと思います。

8. 会議、フォーラム等

毎月「夢会」を開催するとともに、イベント対応や各事業の会議を随時開きました。まちづくり合宿は「地域を活かす経済活動とは!？」をテーマに2月に開催しました。尾道市から(有)いっとく代表取締役の山根さん、海士町役場の濱中さん、真庭市の姜さん、倉敷市の赤澤さん。地元関係では入船さん、ふるさと鹿野の大井津さんに活動発表をいただきました。充実した学びの多い二日間となり、各地から来られた方々との交流も深まりました。

9. 広報活動・視察対応・交流活動

鹿野のまちづくり活動や空き家活用、移住支援に興味をもたれ視察に来られる方も多く、本年度は30回・計345人の視察を受け入れ対応するとともに各地で開催されるフォーラム、会議等において講演・活動発表を依頼され11回参りました。

HPによる情報発信や「鹿野タイムズ」のVol. 11の発刊を行い、鹿野の魅力やまちづくり協議会の活動、地域のイベントなどをお知らせしました。また鹿野へ来訪された多くの方を「ゆめ本陣」「夢こみち」「しかの心」にておもてなしを行い、地域を紹介しました。

「鹿野ちゃれっじ」「鹿野町河内果樹の里山事業」などで交流・連携している、『大阪国際大学』と地域活性化、人材育成の連携・協力の協定を結びました。

こととり舎の活動について

- 2011年「気高芸術のまちづくり委員会」として発足
- 2012年「こととり舎」に改称
 - ・ アトリエ、ギャラリー運営
 - ・ イベントプロデュース
 - ・ 映画映像制作 など → フィルムコミッション、制作者受け入れ
- 「浜村温泉湯けむり映画塾」
 - ・ 2014年からの事業（今年で4年目）
 - ・ 鳥取県の補助事業→今年度は鳥取県と鳥取市から補助
 - ・ 中島貞夫氏（映画監督）の指導の下、気高町を中心ロケ地に映画制作
 - ・ 県外スタッフ、県内（地元）協力者が共同で制作
 - ・ 「浜村温泉映画祭」で発表会



青谷地域の課題や取り組みについて

1 青谷高等学校と地域との連携活動について

(1) 「青谷高等学校のあり方を考える協議会」の取り組み

「鳥取県立青谷高等学校の存続」は、青谷地域はもとより、鳥取市西部地域の今後の活性化に不可欠との認識から、「青谷高等学校のあり方を考える協議会」を平成26年12月に立ち上げ、関係機関への要望活動や先進地視察等に取り組んできました。

〈協議会の主な活動〉

- ① 調査研究 先進地視察（兵庫県立村岡高等学校、岩美町）
- ② 情報発信 協議会の取り組み状況を『支所だより』にシリーズ化して掲載
- ③ 地域連携 地域イベントへの参画
- ④ 青谷高校卓球部による市民への卓球教室 など

(2) 今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針について

鳥取県教育委員会は、平成28年3月に「今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針」を公表し、平成31年度以降の生徒数の減少への対応については、分校化や再編等ではなく、「原則として学級減で対応する」とともに、「特色ある取り組みを推進する学校の存続に最大限努力する」こととされました。

(3) 高校の入学者数の推移

【青谷高校、岩美高校、城北高校、日野高校の入学者の推移】

高校名	定員	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
青谷高校	114人	92	76	47	86
岩美高校	114人	75	86	75	58
城北高校	278人	231	341	410	342
日野高校	76人	63	55	58	45

(4) 今後の支援の取り組み

県教委の基本方針を受けて、「青谷高等学校のあり方を考える協議会」は、一定の役割を終えたものとして平成29年1月に解散しました。

今後、青谷高校の特色ある取り組みの支援を地域として行うため、「協議会」に代わる新たな組織として、地域住民、行政関係者、青谷高校関係者等からなる「青谷高等学校活性化を支援する会（仮称）」を立ち上げます。

「青谷高等学校活性化を支援する会（仮称）」の目的

青谷高校の特色ある教育活動や、地域と青谷高校の連携を深めるための活動を支援することで、青谷高校の活性化に繋がるとともに、青谷地域をはじめ鳥取市西部地域の今後の活性化にも繋げるものとする。

2 青谷上寺地遺跡の保存と活用について

(1) 経 過

① 青谷上寺地遺跡の既往調査

- ・平成10～13年度年（第1次調査）
一般国道9号線青谷・羽合道路改良工事・一般県道青谷停車場井手線整備工事に
係る発掘調査
- ・平成13～29年度（第2～17次調査）
遺跡の範囲、内容の確認、史跡の整備活用に必要なデータの収集を目的とした学術
調査

② 保存整備活用基本構想

- ・平成15、16年度 青谷上寺地遺跡保存整備活用基本構想検討委員会
- ・平成17年3月 青谷上寺地遺跡保存整備活用基本構想を策定

③ 史跡指定

- ・平成20年3月28日 国史跡指定、翌年度から指定地内の公有化に着手

④ 整備活用基本計画

- ・平成19、20年度 青谷上寺地遺跡整備活用基本計画検討委員会
- ・平成21年6月 青谷上寺地遺跡保存管理計画・整備活用基本計画を策定

⑤ 整備活用基本計画の詳細化

- ・平成28、29年度 青谷上寺地遺跡保存整備活用基本計画の見直し

(2) 今後の予定

① 整備活用基本設計

- ・平成30年度 基本設計

② 整備実施設計

- ・平成31年度以降 実施設計及び整備工事

(3) 史跡整備における課題

- ・保存状態に優れた出土品を最大限に活かした青谷上寺地遺跡ならではの魅力的な情報発信
- ・青谷駅から遺跡までのアクセス
- ・核となる施設の整備
- ・指定地外における駐車場の確保・整備
- ・ソフト事業における地域ボランティアの育成 など

(4) 地域との連携

史跡整備は、青谷町地域の地域づくりにとって重要な契機となる。そのため、史跡整備と並行して、地域の関わりを積極的に検討していく必要がある。

(例) ①史跡ガイド (の養成)

② イベントサポーター (の養成)

③ 上寺地遺跡に関連したイベントの実施 など

(5) 現在行っている上寺地遺跡関連事業

- ・古代米の栽培 (青谷小学校5年生)
- ・菖蒲の栽培
- ・青谷かみじち遺跡土曜講座 (年5回：H29年度) など